学校番号	315

令和８年度　理科

教科	理科	科目	看護生物演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	新課程　看護系受験問題集　生物基礎＋生物（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「看護生物演習」では、主に生物分野の既習範囲の問題演習を中心に行います。これらの活動を通して生物についての基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成するとともに、皆さんの進路実現に向けた学習支援を行っていきます。進路決定後も継続して使い続けられる教材に取り組んでいきます。文系生徒が看護系へ進む場合は、高等学校在学中に既習の「生物基礎」だけではなく「生物」についても理解を深めておく必要があります。

2　学習の到達目標

①知識・技能の習得
生物基礎・地学基礎の基本的な概念、法則および理論を理解し、看護医療の場面にあてはめて説明することができることをめざす。
②統合的な知識の活用
上記の知識・技能をもとに理論的な考えを実際の実験・観察結果にあてはめて考察することで、実験・観察結果から適切な思考・判断を行える。また、結果や考察を具体的に他者へわかりやすく表現できる。
③総合的な理解と応用力
様々な問題演習を通して、得られたデータや情報を批判的に評価し、科学的な方法に基づいて新たな問いを立て、自ら探究する態度を養う。卒業後に看護・医療について学ぶ際に高等学校での学びが有機的につながることを意識して学習に取り組む。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	実践的な演習問題を解くため必要な基礎的な知識及び技能を身につける。実際の医療現場において必要となる知識及び技能とこれまでの生物分野での学びを結び付けられる。	実践的な演習問題を解くことを通して、問題の情報及び条件に応じて適切な判断・表現ができる。	進路実現に向けて、自らの弱点を分析・把握できる力を磨くとともに、その弱点に対して、学習の方法を改善しようとする態度を養う。進路決定後も継続して、必要となる生物分野の知識及び技能を自ら学び続ける人間性を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	生物基礎の復習	生物の特徴 遺伝子とその働き 生物の体内環境 生物の多様性と生態系	a：生物基礎について基本的な知識・技能が身についている。 b：生物基礎について、知識・技能をもとに与えられた条件に対して適切な判断･表現ができる。 c：自らの課題を把握し、補強することができる。	問題演習 確認テスト	問題演習 レポート 確認テスト	レポート 振り返りシート 各提出物への工夫や取り組み状況
	生物の学習	人体のはたらきにかかわる内容を中心に基礎的な事項について学習する 主に酵素反応や遺伝子関連、生殖･発生、生物の環境応答	a：生物について基本的な知識・技能が身についている。 b：生物について、知識・技能をもとに与えられた条件に対して適切な判断・表現ができる。 c：発展的な内容にも積極的に取り組む。			
2学期	実践演習	1 学期に学習した内容について多様な実践問題に触れることで内容の定着、応用力を身につける。	a:多様な問題に対し、適切な知識・技能を発揮できる。 b:多様な問題に対し、知識・技能を用い、的確な思考判断を行える、また、表現につなげられる。 c:演習問題を行った後も､解説を確認したり、誤答の原因を探究している。	問題演習 確認テスト	問題演習 レポート 確認テスト	レポート 振り返りシート 各提出物への工夫や取り組み状況
3学期	総合演習･進学後への取り組み	これまでの問題演習をもとにより分野横断的な問題演習やより実践的な演習を行う。 また、高等学校卒業後の進路に向けて再度「生物」の内容で必要な範囲を学習することで教養を深める。	a:多様な問題に対し､分野横断的な知識・技能を発揮できる。進学後に向けて必要な知識・技能を身につけている b:多様な問題に対し、知識・技能を用い、的確な思考判断を行える、また、表現につなげられる。 c:演習問題を行った後も､解説を確認したり、誤答の原因を探究している。進学後に向けて積極的に自らに足りない分野の学習に取り組んでいる。	問題演習	問題演習 レポート	レポート 振り返りシート 各提出物への工夫や取り組み状況

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度